

〔小林由明〕

【Q1】候補者のすすめたい政策をお聞かせください

人口も人口密度も低下させない、徹底的な移住定住・交流・活動人口増のための取り組み。

例えば、空家空地空き店舗などの未利用不動産情報の徹底的可視化による利活用推進。そのためには、所有者意識の刺激がなにより重要。所有者が処分の意欲をもたなければどうにもできない。

また、利便性、快適性、安全の高い都市環境を実現するため、密集市街地問題への対応、地域のオープンスペース活用支援、エキチカに中高大学生の居場所づくり、駅周辺への移住定住支援、創業支援、住環境の向上、子育て環境の充実、職場環境の向上支援、高齢社会における都市防災の向上などを提言する。

新幹線駅があることにより都市間交通の利便性は高いが、都市内交通は利便性を欠く状況にある。これでは、域内から都会へと人口が流出してしまう。赤字となっている弥彦線への新しい交通システム導入のために調査検討の提言、原発有事の避難手段となり得る越後線の運行確保を提言する。

【Q2】候補者から見る燕市、市政の課題、問題点についての考えをお聞かせください
全国10万人未満自治体(約1500)で人口増を実現している自治体(約150)の特徴や政策傾向などを分析した研究があるが、2015～2020において燕市は、社会的に重要な役割を果たすとされる30～49歳人口が増加している。

そうした自治体は全国で約400ほどあり、新潟県では燕市、聖籠町、湯沢町のみ。こうした自治体は活性化の可能性があるとされ、それ以外は衰退型と類型されている。

燕市民からは、三条市を高く評価する声が多く聞かれるが、こうした研究からは三条市は衰退型に位置付けられており、実際に転入転出人口でも、燕市は県内他自治体からの転入が常に転出を上回っているが三条市はその逆の状態が続いている。こうした都市の現実と住民の肌感に乖離があることは、燕市の政治行政に対する市民満足度が低いということの表れであり、住民と議会と行政がともに歩んでいると感じられるマチにできるかが、政治行政の大きなテーマの一つでもあると考えている。

【Q3】候補者から見る燕市の素晴らしい所をお聞かせください

高速道路ICや新幹線駅があるなど、物流拠点性をそなえ県内各都市や首都圏等との交通利便性が高く、県の中央に位置していることから通学通勤なども比較的便がよく、ベッドタウンとしての機能をも有している。

さらに、産業クラスター擁する一大製造業のまちであり、行政サービスと市民の生活

を支えている。

そして燕市隣接自治体へと目を向ければ、越後一宮弥彦神社、弥彦温泉、日本海寺泊、岩室温泉、西蒲三山など、歴史と伝統、産業と自然が織りなす観光資源豊かな土地である。

こうした、非常に高い発展可能性を持っていることは素晴らしいことでもあり、その可能性を發揮していくことが政治行政に求められている。

【Q4】候補者から見る世界情勢についての考察をお聞かせください

他国において主権をかけた争いが発生している。日本は隣国からミサイル発射などの挑発行為を受けている。

そもそも、世界を語る時には、政治は国の主権をどのように守るかの考えを明確に持っている必要がある。

戦争というと武力衝突のことを指す向きがある。

武力衝突＝戦争ではない。戦争とは主権をかけた一連の争いのことである。

武力衝突の前から戦争ははじまっている。

特あらゆる局面においておこなわれるプロパガンダには注意が必要であり、世界は常にその闘争状態にあることを自覚しなければならない。

自国の平和を守る力について考えるべきである。

正義が勝つのではない。正義はそれぞれにある。

プロパガンダにより、勝った者が正義となる非情もまた現実である。

我が国日本、我がマチ燕の未来を語るができるのは、主権があるからこそ。

世界情勢よりなにより、我が国日本の独立と主権について、国民の自覚と行動を政治がしっかりと促す必要がある。